平成２１年度　自己評価計画書

石川県立金沢辰巳丘高等学校

重点目標	具体的取組	主担当	現状	評価の観点	達成度判断基準	判定基準	備考
1　**学習指導、進路指導の充実** （個に応じた指導により、基礎基本の定着と学力の増進を図るとともに、各コースの特性を活かした進路指導の充実を図り、生徒個々の早期の目標の設定を促す）	**授業の改善と、基礎学力の充実** ①　教材を工夫し、わかりやすい丁寧な授業を実施する。	教務課 各教科	生徒が興味関心を持つよう教材を精選し、理解度を高めようと努力している。授業は落ち着いて来たが、学力や学習意欲に多様性が見られる。	【満足度指標】 教材等も工夫され、授業が分かりやすく丁寧であると感じている生徒が増加している。	先生の説明が分かりやすいと答える生徒が、 A　８０%以上である。 B　７０%以上である。 C　６０%以上である。 D　６０%未満である。	C or D のとき、授業研究のあり方を再検討する。	７月、１２月に実施する、生徒による授業評価で確認する。
	②　前・後期、各１回校内公開授業週間を設け、研究授業・研究協議会を充実する。また、研究授業における協議内容を全職員に報告する。	教務課 各教科	年２回の公開授業週間において、他教科の授業も含め、参観の機会が設けられているが、参観するだけでなく、各教科で研究協議会を適宜行い、授業改善に向けた検討が必要である。	【努力指標】 公開授業週間を通して、積極的に授業参観を行う。また、各教科において各教科で研究授業・研究協議会を実施し、授業改善へ向けた具体的な取組について検討する。なお、研究協議会の内容については、全職員に還元する。	公開授業週間等を利用して年間、 A　授業参観を５回以上行った。 B　授業参観を４回行った。 C　授業参観を３回行った。 D　授業参観は２回以下だった。	A＋Bが８０%未満のとき、授業参観を強く促す。	２月に実施する、教職員に対するアンケートで確認する。
					各教科で研究協議会を行い、その報告を、 A　全教科で行った。 B　ほぼ全教科で行った。 C　半分程度の教科で行った。 D　ほとんどの教科で行われなかった。	C or D のとき、教科会のあり方を、検討し改善する。	２月に、各教科主任に確認する。
	③　家庭学習の定着をねらいとする効果的な課題を与え、家庭学習時間を増加させる。	教務課 各教科	年度当初、国・数・英を中心に学年ごとの年間計画を定め、教科ごとに２週間に１度程度の週末課題を与えている。 また、課題提出も評価に加え、学習時間の増加を図っているが、毎日学習を行っている生徒は２０%程度で、生徒個々の家庭学習時間は少ない。	【成果指標】 各教科で計画的に週末課題を含む課題を効果的に与え、家庭学習習慣を確立させ、１・２年生は１時間以上、３年生は２時間以上の家庭学習時間を持つよう指導する。	課題の提出率が A　８０%以上である。 B　６０%以上である。 C　４０%以上である。 D　４０%未満である。	C or D のとき、課題の提出の徹底を学校全体で取り組む。	７月、２月に実施する生徒に対するアンケートで確認する。
					各学年が目標とする家庭学習時間を満たす生徒が、 A　７０%以上である。 B　５０%以上である。 C　３０%以上である。 D　３０%未満である。	C or D のとき、各学年で対応策を立て、改善する。	
	進路指導体制の確立と目標の早期設定 ④　キャリア教育を充実させ、高校生活における個々の目標を設定させる。	進路課 学年会	生徒の約６０%が本校に入学したことに満足し、進路ガイダンスも適切であると答えているが、目標を持った取組はまだまだ不十分である。	【満足度指標】 キャリア教育の充実が図られ、３年間の高校生活の目標が設定され、本校に入学したことに満足感を持っている。	本校に入学して良かったと思う生徒が、 A　７０%以上である。 B　６０%以上である。 C　５０%以上である。 D　５０%未満である。	C or D のとき、その原因を考察し対応を検討する。	７月、２月に実施する生徒に対するアンケートで確認する。
	⑤　個人面談等を効果的に活用し、進路目標の明確な設定を図る。	進路課 学年会 各教科	生徒の約７０%が具体的な進路目標を持っていると答えているが、そのための学習のプロセスが不明確な生徒が多い。	【満足度指標】 明確な進路目標が定まり、そのためにはどのような学習のプロセスが必要であるかわかっている。	具体的な進路目標を持っている生徒が、 A　７０%以上である。 B　６０%以上である。 C　５０%以上である。 D　５０%未満である。	C or D のとき、その原因を考察し対応を検討する。	７月、２月末に実施する生徒に対するアンケートで確認する。
	⑥　個に応じたきめ細かな指導により、成績上位層の学力の増進を図る。	進路課 各教科	昨年は国・数・英では、成績上位者が増加したという評価となったが、判断基準をもっとわかりやすいものにする必要がある。	【成果指標】 校外模試の各学年の前年度最後と今年度を比較し成績上位者の増加を、また各回の比較により成績上昇者の増加を果たす。	成績上位者及び成績上昇者の増加が、 A　全教科においてみられた。 B　半分以上の教科においてみられた C　半分以下の教科においてしかみられなかった D　ほとんどの教科でみられなかった	C or D のとき、そ原因を分析し、教科指導のあり方を再検討する。	進路指導課で、各校外模試の成績を分析し、確認する。
	⑦　チャレンジ精神を培えるよう３年間を見通した小論文指導を行う。	進路課 学年会 国語科 小論文委員会	本校の進路指導は推薦が中心となるので、小論文指導は大変重要である。 全職員一丸となった協力体制の構築が不可欠である。	【努力指標】 小論文委員会の計画に基づき、研修を定期に行って、指導のためのスキルアップに努め、全員体制の小論文指導を目指す。	小論文指導に積極的に協力できたと答える教員が、 A　９０%以上である。 B　８０%以上である。 C　７０%以上である。 D　７０%未満である。	C or D のとき、協力体制のあり方について検討する。	年度末に実施する、教職員に対するアンケートで確認する。

石川県立金沢辰巳丘高等学校

重点目標	具体的取組	主担当	現状	評価の観点	達成度判断基準	判定基準	備考
2 望ましい生活習慣の確立 （通学マナーをはじめとする社会規範を守り、遅刻や欠席を減らし、登下校時等の挨拶を励行するなど、基本的生活習慣の確立を図る）	**基本的な生活習慣の確立と社会的規範意識の育成** ⑧ バスの乗車マナーや自転車マナーの向上を目指す。	生徒指導課 全職員	バスの乗車マナーは徐々によくなっているが、自転車のマナーについては、交通ルール違反がまだ見られる。	【成果指標】 バスの乗車マナーや自転車の通学マナーがよく身についている。	自分自身の通学マナーは良いと答える生徒が、 A ８０%以上である。 B ７０%以上である。 C ６０%以上である。 D ６０%未満である。	C or D のとき、生徒に通学マナーを深く考えさせる指導を徹底する。	７月、２月に実施する生徒に対するアンケートで確認する。
	⑨ 家庭との連携を図りながら、服装、頭髪、化粧などの身だしなみ指導（生徒心得の遵守）を全職員で行う。	生徒指導課 全職員	定期的な登校指導・服装検査の他に、終礼時、学年主体の正副担任による服装検査を実施している。頭髪については、全体として良くなっている。	【成果指標】 生徒が服装・頭髪などの身だしなみが「自分を表しているもの」であるという自覚を持ち，身だしなみに関する生徒心得を遵守している。	自分自身は、服装容儀について生徒心得を守っていると答える生徒が A ８０%以上である。 B ７０%以上である。 C ６０%以上である。 D ６０%未満である。	C or D のとき、教員の協力体制が十分であったかどうか検証する。	７月、２月に実施する生徒に対するアンケートで確認する。
	⑩ 「遅刻防止週間」を毎月１回以上設け、遅刻半減を目指す。	生徒指導課 学年会	遅刻者数は，「早朝登校」や「放課後の居残り指導」などによって減少してきたが，さらに減らす必要がある。 前年度の遅刻者の延べ人数は１２６３人であった。	【成果指標】 遅刻者数が前年度に比べ減少し、延べ１０００人を下回る。	遅刻者の延べ人数が A ８００人以下である。 B １０００人以下である。 C １２００人以下である。 D １２００人を超える。	C or D のとき、原因を分析し、対応策を再検討する。	生徒指導課で、年度末に集計を取り、確認する。
3 心豊かな人間性の育成 （自主・自律の建学精神のもと、ボランティア精神や環境保護の精神を培い、地域社会から信頼される心豊かな人間性の育成を図る）	**地域社会から信頼される心豊かな人間の育成** ⑪ 人間としての在り方・生き方の自覚を深める教育を実施する。	学年会 各教科	過去２年間、文科省指定の「道徳教育」の実践研究を行ってきたので、その成果として効果的のあった取り組みを継続的に実践し、生徒に人間としての在り方・生き方を考えさせて行きたい。	【満足度指標】 構成的グループエンカウンターやアサーション等を通して、人と人との接し方について考える機会を持ち、考えを深めることができている。	構成的グループエンカウンターやアサーション等を通して、人と人との接し方について考えを深めることができたと感じる生徒が、 A ８０%以上である。 B ６０%以上である。 C ４０%以上である。 D ４０%未満である。	C or D のとき、取り組みのあり方について検討する	７月、２月に実施する生徒に対するアンケートで確認する。
	⑫ 地域に根ざした学校づくりを推進するため、生徒会が中心になり奉仕活動を展開する。	生徒会 学年会	年間４回の近隣地域でのボランティ清掃を実施している。 地域に根ざした奉仕活動のあり方を考え、今後も継続・実践して行きたい。	【努力指標】 年間を通して近隣地域でのボランティア活動を実施する中で、奉仕活動の意義を理解し、積極的な取り組みをみせる。	ボランティア活動への参加率が、 A ９０%以上である。 B ８０%以上である。 C ７０%以上である。 D ７０%未満である。	C or D のとき、原因を分析し、対応、改善策をきちんと考える。	７月、２月に実施する生徒に対するアンケートで確認する。
	⑬ 「学校版環境ＩＳＯ」の取得校にふさわしいエコ活動を展開し、CO_2の削減を目指す。	環境保健課	昨年「学校版環境ＩＳＯ」を取得したので、具体的数値目標を掲げ、エコ活動を充実させる必要がある。	【成果指標】 生徒・職員全体がエコ活動に積極的に取り組む。	エコ活動の取り組みに積極的であると答える生徒・教職員が、 A ９０%以上である。 B ８０%以上である。 C ７０%以上である。 D ７０%未満である。	C or D のとき、エコ意識が浸透するよう改善策を検討する。	７月、２月に実施する生徒・教職員に対するアンケートで確認する。

石川県立金沢辰巳丘高等学校

重点目標	具体的取組	主担当	現状	評価の観点	達成度判断基準	判定基準	備考
4 部活動･生徒会活動等の活性化 （部活動・生徒会活動を通じ、たくましい心と体を培い、積極的で活力ある人間の育成を図る）	**部活動･生徒会活動等の活性化** ⑭ １年生には全員部活動に参加するように促すなど、部活動を活性化させる。	生徒会 学年会	全生徒の部活動の加入率は８７％と高いが、実際に活動している生徒の割合が低い。	【努力指標】 部活動の加入者を増やすと共に、実際に活動している生徒の割合も増やす。	部活動に加入している生徒の参加率が A　８０％以上である。 B　７０％以上である。 C　６０％以上である。 D　６０％未満である。	C or D のとき、各部の活動状況を確認し、生徒の参加を強く促す。	７月、１月に各顧問に確認する。
		生徒会	特に運動部が停滞気味であるので、活発に活動している部の精選を行い、顧問の数にも限りがあるので、指導体制の強化を、環境作りも含め検討する必要がある。	【努力指標】 学校全体として、環境作りを含め、顧問の部活動へのかかわりを強化する。	部活動活性化への体制作りが強化され、部活動が活発になったと答える教職員が、 A　７０％以上である。 B　６０％以上である。 C　５０％以上である。 D　５０％未満である。	C or D のとき、その原因について考察し、改善策を再検討する。	７月、２月に実施する教職員に対するアンケートで確認する。
	⑮ 体力測定記録の更新を各自に意識づけ、全学年を通した体力の向上を目指す。	体育科	２年女子の体力がやや低いようであるが、体力向上に取り組む意欲は高いので、各種行事を通して、各自のベスト記録を更新させたい。	【成果指標】 ランニングロード(１周130m)における、男子２０周の平均タイム１２分３０秒、女子１０周の平均タイム７分４５秒を目指す。	男子１２分３０秒以内、女子７分４５秒以内の生徒が、 A　７０％以上である。 B　６０％以上である。 C　５０％以上である。 D　５０％未満である。	C or D のとき、体力向上のあり方について改善策を検討する。	体育科で年度末に集計し、確認する。
	⑯ 生徒一人ひとりが充実感・達成感をもてる生徒会行事を、企画・運営する。	生徒会 学年会	新入生歓迎会・スポーツ大会・学園祭等を実施しているが、さらに積極的な参加が得られるようにしなければならない。	【満足度指標】 生徒会行事の充実感・達成感があった。	各行事終了後の感想として、充実感・達成感があったと答える生徒が、 A　９０％以上である。 B　８０％以上である。 C　７０％以上である。 D　７０％未満である。	C or D のとき、各行事のあり方を検討する。	各行事後に実施する生徒に対するアンケートで確認する。
5 広報活動の充実 （広報活動をさらに活発化させ、学校理解を深め、地域に開かれた学校作りを推進する）	**広報活動の拡充と開かれた学校作りの推進** ⑰ カリヨンニュース等を充実させ、地域および地域の中学校との連携・理解を深める。	各ｺｰｽ 総務課	各コースの特徴を生かした取り組みをさらに充実発展させ、近隣地域、中学校への広報活動を行っている。また、学校開放講座や図書館開放も行っている。	【努力指標】 近隣地域、中学校への広報活動の成果を上げる。	対前年度比の志願倍率が A　１０％以上増加した。 B　５％以上増加した。 C　ほぼ同じであった。 D　減少した。	C or D のとき、その原因を分析し広報活動についても何が足りなかったか検討する。	一般入試の志願倍率が出た段階で判明する。
	⑱ ホームページをよりわかりやすいものに一新し、タイムリーな情報を発信する。	教務課 各課	ホームページの更新は、必要に応じて行ってはいるが、さらに分かりやすくバランスの取れたものにする必要がある。	【成果指標】 ホームページの刷新を行い、各コースのバランスのとれたものにする。また、小まめに情報の発信をし、アクセス数を増やす。	本校のＨＰでは、情報の発信が適宜行われていると答える保護者、教職員が A　７０％以上である。 B　６０％以上である。 C　５０％以上である。 D　５０％未満である。	C or D のとき、ＨＰの更新の時期とその内容について再検討する。	７月、２月に実施する保護者・教職員に対するアンケートで確認する。